

**一般ポスター 透析技術 5 (16:00~17:00)**  
**P-2-640～P-2-649**

2017 年 6 月 17 日 (土) 16:00-17:12  
**ポスター会場 | 展示ホール**

座長：新部 武人（芳賀赤十字病院）  
 座長：槇 昭弘（古川星陵あすか病院）

**P-2-645**

**個人用透析装置洗浄法の変更による洗浄効果の検討**

加藤 豪<sup>1</sup>、立花 直樹<sup>1</sup>、勝 佳奈<sup>1</sup>、尾田 祐二<sup>1</sup>、高橋 拓也<sup>1</sup>、  
 川澄 正朗<sup>1</sup>

1:日進クリニック透析室

**【はじめに】**当院では、2016 年 8 月増床に伴い個人機ニプロ社製 NCV-10（以下 NCV-10）を 3 台増台した。それに伴い RO 装置の主配管から分岐した枝配管に NCV-10 へ RO 水を供給しているが導入直後より生菌・エンドトキシンが予想を上回る値で発生した。また、枝配管より排液ラインを設け排液をしたが効果が見られなかった。その後 RO 配管の洗浄を試みたがコスト、技術面で断念した。2014 年に発表した洗浄方法 NCV-10 でも試みた。AN-TEC 社のクリーン  $\alpha$ ・カルトン C を使用し洗浄液・洗浄方法を変更し一定の効果が得られたので報告する。

**【方法】**培養キット、37mm クオリティモニタ（m-TGE 培地）を使用し、NCV-10 の透析液を 50ml 採取し 25 ℃ 7 日間培養し生菌を検出した。

**【効果】**洗浄液の濃度の変更、NCV-10 の洗浄プログラムでクリーン  $\alpha$  洗浄後、次亜塩素酸 Na を行う 2 液洗浄できるように装置を改造し、その後クリーン CLII にて洗浄を行う方法により生菌・エンドトキシンの発生を減少できた。また、酢酸洗浄ラインに発生した黒カビを防ぐことができた。

▲ TOP

